

ホームページへの掲載

11月26日掲載

---

## 岐阜県立東濃高等学校

学校長 亀山 弘

学校住所 可児郡御嵩町御嵩 2854-1

0574-67-2136 fax0574-67-6204

ホームページ <http://school.gifu-net.ed.jp/tono-hs/>

---

- 1 会議名 東濃高等学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和元年10月30日(水) 14:15~16:15
- 3 開催場所 東濃高等学校 会議室
- 4 参加者 

委 員	寺本 公行	御嵩町副町長
	田中 妙子	会社経営・税理士
	鍵谷 欣弘	東海化成工業(株)安全環境統括室長
	斉藤 之男	御嵩町ボランティア「輝き隊」
	池田 万里	東濃高等学校PTA副会長
	古賀 和美	東濃高等学校PTA副会長
	佐々木 亜弥	東濃高等学校PTA書記
	山口 早苗	東濃高等学校PTA会計
学 校 側	亀山 弘	校長
	脇田 治之	事務長
	青井 俊久	教頭
	溝下 肇	教頭
	片山 澄美	進路指導主事
- 5 会議の概要(協議事項)
  - (1) 赤陵祭参観
  - (2) 学校長挨拶・日程説明
  - (3) 学校評価の結果説明
  - (4) 本年度のこれまでの取組説明
    - ・演劇ワークショップ(アンケートの結果から)
    - ・地域連携による活力ある学校作り推進事業  
(御嵩町環境都市交流体験プロジェクト事業参加報告)

- ・教室のICT環境整備
  - ・その他
- (5) 質疑・意見交流
- (6) その他・諸連絡

## 6 会議のまとめ

開会挨拶	<p>学校長から：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力診断テスト（ベネッセ）の伸び率がよい。（特に3年生が1年次より伸びている。）この理由をベネッセから尋ねられたが、本校としては何か特別なことをしているわけではない。</li> <li>・生徒が毎日元気に登校してくれることが何よりである。</li> </ul>
学校評価の結果について	<p>教頭から：（資料に基づき説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校管理規則で定められているものであり、生徒と保護者（抽出）に加え運営協議会の構成員にも実施したものを集計・分析した。</li> </ul>
質疑1	<p>資料は3学年分をまとめたものだが、学年による差や、学年進行に伴う変化などは見られるか？</p>
回答	<p>——あまり差は見られないようである。学年ごとの集計はそのような観点で分析していないので、今後検討したい。</p>
質疑2	<p>基礎力や意欲の面で、学校側の環境作りの成果と思われるが、ICT機器導入の効果は認められるのか。</p>
回答	<p>——10月に使えるようになったばかりで、機器の使用についての正式な説明会は11月に予定されているという状況であり、今は一部の教員が試行的に使い始めた段階である。</p> <p>現時点で認められている効果としては</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白板への投影を生徒が見るため、顔を上げていることが多くなり、授業の雰囲気よくなった。</li> <li>・教員側の教材準備の時間が短縮された。</li> </ul> <p>などが考えられる。一方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員により得手不得手があり、利用に関して温度差がある。</li> <li>・全ての教室に導入されたわけではなく、利用できない教室がある。</li> </ul> <p>といった課題もある。</p>
質疑3	<p>部活動により学年を越えたつながりが生まれ、コミュニケーション力の向上につながる事が期待されるが、残念ながら（他の項目と比較して）部活動の活発さについて数値が低い。これはアルバイトの影響が考えられないか。</p>
回答	<p>——実際のところアルバイトをしている生徒は多く、部活動への影響は考えられるが、家庭の状況などにより、アルバイトをしなければならない生徒もいる。そのため、禁止などの措置はとれないのが現状である。</p> <p>なお、部活動の活性化については、例えば冬期のトレーニングを部員数の少ない複数の部で合同で行うなど、今後検討していく。</p> <p>また、活動状況を広報していくことも、活性化につながると考え、積極的に「月刊東濃高」で取り上げている。</p>
質疑4	<p>「本校に入学できてよかった」という生徒が9割をしめるのは教員の努力に寄るところが大きいと思われるが、部活動については顧問も大変である。部を特化する（絞り込む）ことはできないか。例えばロボコン部のよ</p>

<p>回答</p>	<p>うな活躍している部を中心にしてはどうか。      ——部を絞り込むのは難しい。それぞれの部で頑張っている。例えば、バスケットボール・バレーボールは外国人生徒の活躍が見られる。</p>
<p>質疑5          回答</p>	<p>清掃について生徒の評価が高くないようだが、原因や対策を聞きたい。      ——生徒の中には、再試験等を理由に掃除に来ないものがある。また、教員側も生徒指導・再試験・会議などで掃除に行けないこともある。こうした状況もあり、小中学校のように清掃指導を学校での教育活動の柱に位置づけるのは難しい。          対策としては          ・清掃に関する職員研修の実施          ・生徒と職員の意識改革          などが考えられる。</p>
<p>質疑6          回答</p>	<p>保護者側に「学校からの連絡文書が届いていない」という意識があるようだが。      ——対策として、「すぐメール」の活用などが考えられる。また、「体罰調査」では、保護者名を記入した封筒に入れて生徒を通じて配付した。</p>
<p>質疑7          回答</p>	<p>学校を参観できる機会が少ないという声が多いようである。      ——学校行事を公開する機会はある程度あるが、授業の公開が少ないと思われる。          対応の一つとして、11月に保護者に対する授業公開日を設ける予定なので、是非来ていただきたい。</p>
<p>演劇表現ワークショップ（以降、演劇WS）のアンケート結果について</p>	<p>教頭から：（資料に基づき説明）          生徒には非常に好評であったが、「よかった」「楽しかった」で終わらず、今後の教育活動において継続していくことが大切であると思われる。</p>
<p>質疑8          回答</p>	<p>演劇表現ワークショップは1年次に実施されているが、2・3年次へはどのようにつながっているのか。つながっていないとしたらもったいない。一連の流れがほしい。コミュニケーションは社会人としても大切である。      ——3年間を通しての流れは、          1年次：演劇WS、キャリア教育プログラム          2年次：エンカウンター（スクールカウンセラーによる）          3年次：（就職・進学のための）面接練習          となっている。演劇WSには本校教員も参加や参観しており、本校の教員のみでも実施できることもあると思われる。          また成果の一つとして、文化祭での表現につながっており、ステージ発表に演劇に取り組むクラスが増えてきた。</p>
<p>地域連携による活力ある学校作り推進事業の報告</p>	<p>学校長から：（資料に基づき説明）          昨年度と異なる点として、今年度は北海道の下川商業高校を訪問した。下川商業高校は小規模校であり、進路の傾向も本校と似ている。本校の生徒が他校を訪問する機会はありませんので、とても新鮮であり、訪問先で教頭先生にたくさん質問をするなど意欲的な姿が見られた。</p>
<p>質疑9          回答</p>	<p>下川町への訪問や部活動などについて報告の場があるとよい。小学校のように、昼食時に校内放送で流すのはどうか。      ——実際のところ全校に報告する機会がない。御嵩町の環境フェアでの報告会のみである。（広報誌「月刊東濃高」も活用し、活動状況などを広報している。）放送については、小中学校とは異なり、昼休みに生徒が教室</p>

<p>意見1： （このプロジェクトに参加した生徒の保護者から）</p>	<p>で静かに放送を聴けるようにはならない。他には、例えば3年生のロッカールームを活用して、掲示によって発表の場とするのも一案である。他にはSNSの活用なども考えられる。いいことを伝えていく方法を引き続き模索していきたい。</p> <p>下川町を訪問して生徒が変わった。ペットボトルの分別などを意識できるようになった。</p>
<p>その他 ・身なりについて 質疑10</p>	<p>他校に比べて制服の着こなしが気になる生徒がいるが、この現状を学校としてどう捉えているか。</p>
<p>回答</p>	<p>——確かにスカート丈の短い生徒は一部いるが、以前より減ってきており、改善傾向にある。対策の一つとして、1年次の「制服着こなしセミナー」など外部講師も活用した啓発をしている。生徒の意識に継続的に訴え続けていくしかない。</p>
<p>質疑11 回答</p>	<p>学校外での制服の着こなしが自由になってしまっている、と思われるが。</p> <p>——暑い時期、学校内のクーラーのあるところではよいが、登下校時など暑さに負け、服装が乱れてしまうときがある。校外では、「その生徒（個人）」ではなく「東濃高校の生徒（全体）」のこととして判断されてしまう、ということも踏まえてこれからも訴え続けていく。</p>
<p>質疑12 回答</p>	<p>女子のスボン（スラックス）はダメなのか？</p> <p>——OKである。既にスボンを着用している女生徒も在校生の中にいる。</p>
<p>・遅刻について 質疑13</p>	<p>企業が望むのは「遅刻をしない生徒」・「掃除をきちんとする生徒」である。学校での指導を望む。</p>
<p>回答</p>	<p>——その通りである。「キャリア教育プログラム」等においても是非生徒に、直接その思いを伝えていただきたい。</p>
<p>・あいさつについて 意見2</p>	<p>あいさつをできる生徒が多い。PTAバザーでも「ありがとうございます。」と気持ちよい対応ができる生徒が多かった。</p>
<p>連絡</p>	<p>教頭から： 次年度に向けて生徒手帳（校則）の見直しを行っている。ポイントは次の2点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に関わること（頭髪、身なりなど）</li> <li>・働き方改革に関わること（校外での指導は保護者に任せ、校外の活動についての事務手続きをなくしていく）</li> </ul> <p>第3回の協議会で、外部の目として見ていただき、意見を承りたい。</p>